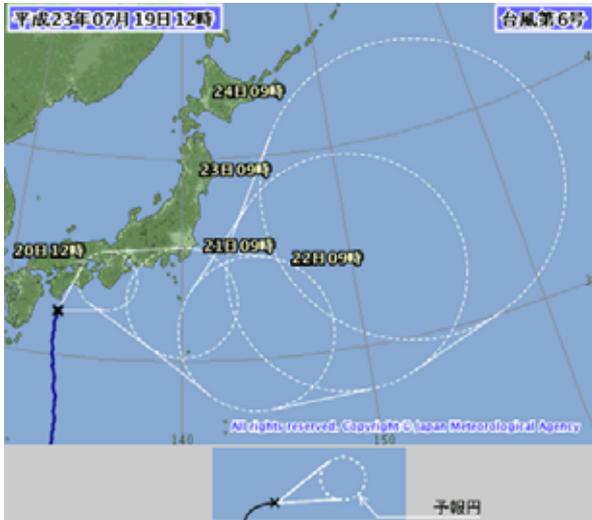


台風第6号に対する農作物の技術対策

福島県農林水産部農業振興課



大型で非常に強い台風第6号は、7月19日12時には足摺岬の南約60キロにあって、1時間におよそ20キロの速さで北へ進んでいます。中心の気圧は960ヘクトパスカル、中心付近の最大風速は40メートル、最大瞬間風速は55メートルで、中心の東側190キロ以内、西側110キロ以内では風速25メートル以上の暴風となっています。

20日にかけて断続的に非常に激しい雨が降るおそれがありますので、大雨に対する警戒が必要です。

今後の台風情報に注意してください。

(出典：平成23年台風第6号に関する情報第88号 平成23年7月19日12時45分 気象庁予報部発表)

今後の台風の情報に留意し、農作物の管理には十分注意しましょう。

1 水 稲

(1) 事前対策

- ア 増水に備え、用排水路を点検しゴミ等を取り除いておきましょう。
- イ 台風襲来により水路が増水している場合は、危険ですので近づかないで下さい。

(2) 事後対策

浸水・冠水した場合は、早急に排水を図り少しでも早く葉先を出すよう努めてください。

2 大 豆

(1) 事前対策

- ア 速やかにほ場排水ができるよう明きょ、暗きょ等を点検し、ゴミ等の除去など実施しておきましょう。
- イ 滞水しやすいほ場では、必要に応じて畦畔の切削等を実施し排水に備えましょう。

(2) 事後対策

表面水や明きょの滞水は早急にほ場外に排水しましょう。

3 そば

(1) 事前対策

滞水しやすいほ場では、必要に応じて畦畔の切削等を実施し排水に備えましょう。

(2) 事後対策

地表面に滞水が見られる場合は、溝切りなどの排水対策を行いましょ。

4 野菜・花き

(1) 事前対策

ア 共通

- (ア) ほ場周囲の排水溝を点検し、速やかに排水できるようにしておきましょう。水害の常習地帯では強制排水のポンプも準備しておきましょう。
- (イ) ほ場周囲に防風ネットを設置している場合は、ワイヤー・針金の緩みやネットの破損を点検し補修しましょう。
- (ウ) パイプハウスの被覆資材及び止め具（マイカ線、ビニペット等）を点検し、ビニールの破損があれば補修しましょう。
- (エ) パイプハウスやネット栽培等で支柱を使用しているものは筋かいを入れ、補強しましょう。
- (オ) 施設では、天窓や扉があおられたり風が吹き込まないように完全に閉めておきましょう。
- (カ) 雨よけのみのパイプハウス等施設は強風に弱いため、ラセン杭、ハウスバンド等で浮き上がらないようにしっかりと固定しましょう。
- (キ) 収穫可能なものは、できるだけ台風接近前に収穫しましょう。
- (ク) は種や定植を予定しているものは、台風通過後に実施しましょう。

イ 野菜

- (ア) 露地の葉菜類や根菜類では、べたがけ資材（不織布等）を支柱を用いて浮き掛けすることにより被害を軽減することができます。その際は、べたがけ資材が風に飛ばされないようにしっかりと止めましょう。
- (イ) アスパラガスやピーマンでは、フラワーネットと支柱、ナスでは支柱等を点検し、倒伏を防止しましょう。

ウ 花き

露地栽培では、フラワーネットの張りや支柱を点検し、倒伏や曲りを防止しましょう。

(2) 事後対策

ア 共通

- (ア) 停滞水は、明きよなどで速やかな排水に努めましょう。
- (イ) 冠水した場合は、圃場への出入りによって土壌の物理性が悪化しないよう配慮しましょう。ぬかるむ場合は、出入りを極力避けましょう。
- (ウ) 台風通過後は天気が回復するため、吹き返しに注意しながら、施設等の換気を図りましょう。

イ 野菜

- (ア) 排水後、ほ場作業が可能になったら直ちに畦間の中耕を行い、土壌の通気性を良くし根の働きを回復しましょう。
- (イ) 果菜類等でネット等からはずれたつるや茎葉等は、再度誘引し直しましょう。茎葉の損傷が激しい場合は、新葉(枝・つる)の発生を確認してから摘除しましょう。
- (ウ) 冠水や多湿、茎葉の損傷等により病害にかかりやすくなっていますので、直ちに適切な薬剤散布を行いましょ。また、草勢回復のため、液肥のかん注や葉面散布剤の散布を行いましょ。
- (エ) 果菜類では、損傷を受けた果実は早急に摘果しましょ。

ウ 花き

- (ア) キクやリンドウ、シンテッポウユリ等の露地栽培では、風雨により損傷を受けると病害が発生しやすいので、速やかに適切な薬剤散布を行ったり、草勢回復のために液肥の葉面散布を行いましょ。
- (イ) ほ場が冠水した場合は、速やかに排水を行うとともに、付着した泥を洗い流し、灰色かび病等の予防薬剤散布を行いましょ。また、液肥の葉面散布や酸素供給剤のかん注により、草勢回復を図りましょ。

5 果樹

(1) 事前対策

- ア 現在、収穫期に入っているモモ等では、強風による落果や傷害が懸念されるので、収穫可能な果実は事前に収穫しましょ。
- イ 立木では、主枝などの大枝が裂けるおそれがあるので、支柱で支え、脱落しないよう枝受け部分を結束します。また、側枝は支柱等で固定すると落果を助長することがあるので、支柱等はずし風になびくようにします。
- ウ リンゴのわい性台樹は倒伏しやすいので、支柱への結束状態を確認し、不十分な場合は補強しておきます。また、木支柱の場合は、支柱の根元が腐敗していないかどうか確認します。
- エ 果樹棚(ナシ、ブドウ等)等の施設は、前もって点検し、強風の前にアンカー補強や棚線の締め直し等を行います。また、棚周囲に防風ネットを設置している場合は、風で飛ばされないように補強しましょ。

(2) 事後対策

- ア 滞水している園地では、明きょなどにより速やかな排水に努めましょ。
- イ 落果した果実は速やかに収集し、適正に処理しましょ。
- ウ 葉や果実に損傷がある場合は、病原菌の侵入を防止するため、被害1~2日後に適切に薬剤散布を実施しましょ。なお、被害後に定期散布が近い場合は、この散布に置き換えて実施します。
- エ 落葉や葉の損傷が大きい場合には、その程度に応じて修正摘果を行います。
- オ 倒伏した樹はできるだけ早く起こし、土を盛り、支柱等で固定します。また、かん水やマルチにより根の乾燥防止に努め、新根の発生を促します。大枝が裂けた場合は、ボルトやカスガイ等で止めるか、縄などでしばり傷口を接着させます。
- カ 台風通過後は、フェーン現象により一時的に高温になり、乾燥した風により葉焼け等が発生しやすくなります。このような場合はスピードスプレーヤ等で散水し、樹体温を下げるとともに湿度を維持し、被害を軽減するようにします。

6 畜産・飼料作物

(1) 事前対策

- ア 強風による畜舎、飼料庫、飼料タンク、堆肥舎等の損壊、及び風雨の吹き込みを未然に防止するため、屋根、扉、窓、外壁及び排水溝等の破損や亀裂等の有無を確認し、必ず補修等の応急措置を行いましょう。
- イ 特に、開放された飼料の保管場所では、乾草や稲わら等をシートで覆うなどして、雨水がかからないようにしてください。
- ウ 堆肥舎への風雨の吹き込みにより、堆肥や汚水が流出することが心配されますので、堆肥をシートで覆うなどして、流出を防止しましょう。
- エ あらかじめ停電や断水等の対応を確認し、被災時には自家発電機等による搾乳や生乳冷却等の対応ができるよう対策を行いましょう。
- オ 水はけの悪い草地や飼料畑には明きょを掘削するなど、速やかに排水できるようにしましょう。

(2) 事後対策

- ア 畜舎等が浸水した場合は速やかに排水し、疾病発生予防のため洗浄と消毒を行った後、施設内の乾燥に努めましょう。
- イ 滞水している草地や飼料畑は、明きょなどを点検し速やかに排水しましょう。
- ウ 豪雨により草地や飼料畑で土壌浸食が発生した場合は、早めに修復しましょう。

病害虫の発生予察情報・防除情報

病害虫防除所のホームページに掲載していますので、活用してください。

<http://www.pref.fukushima.jp/fappi/>

農薬散布は、農薬の使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましょう。

発行：福島県農林水産部農業振興課 TEL(024)521-7336

http://www.pref.fukushima.jp/keieishien/kenkyuukaihatu/gi_jyutsufukyuu/seiikugi_jyutsujyohou.html